

日本ロータリー復活を願って



第 2680 地区

久野 薫 ガバナー
(神戸東 R C)

今年度 G S E (研究グループ交換) チームリーダーの室津義定 G S E 地区委員長から、インドの Rajkot Greater ロータリークラブの 2011 年 12 月 22 日付週報を紹介していただきました。

「最近の大津波による原発事故に際して、日本人が示した稀有の驚くべき描写に値する威厳ある集団行動—まねるべき真の市民資質」、そして最後に「これが国を偉大にするのだ!」と結んであります。その資質とは、①冷静さ、②威厳、③技術力の高さ、④犠牲的精神、⑤行動の優雅さ、⑥訓練された行動、⑦優しさ、⑧メディアの冷静な報道、⑨略奪なき秩序ある行動、⑩良識、であります。個々の日本人がいまだ失っていない資質がここにあります。

しかし、国全体となったとき、そこには政治、経済、社会、教育のやるせない閉塞感^{へいそく}が漂っています。国としてのリーダーシップの欠如に他なりません。私は、日本のロータリーの今ある姿と重ね合わせております。国際ロータリーは、奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップという 5 つの「中核となる価値観」をもってロータリーのブランド化を望んでおります。

しかし、わが国のロータリーの現状を見たとき、そこには、①学ぶ意欲の欠如、②例会の形骸化、わくわく感の欠如、安易な前年度に倣^{なら}えの習わし、そして決定的には③親睦の欠如、ともすれば感性的親睦さえ危ういものです。そして残されたものは「何もしないという自治権」「二宮尊徳、石田梅岩の域を出ない職業奉仕観」であります。このような状況下で会員数が減少するのは自然の理ではないでしょうか。そこには世界の日本人資質観からすれば、理解の外にあるわが国のロータリーがあります。「わが国のロータリーの復活」のために残された時間はありません。今すぐに取り掛からなければなりません。今の私の視点であります。

(病院)